

追手門学院大学学生による 体育実技の履修に関する実態調査

千葉 英史*・巽 樹理*・小寺 亮太**

A Survey of Physical Education Practice by Students at Otemon Gakuin University

Eiji CHIBA, Juri TATSUMI, Ryota KOTERA

【キーワード】 大学体育実技、履修動機、学生意識

I. はじめに

本学体育科目の由来

1966年の大学設立とともに保健体育科目が発足され、当時は体育実技・体育講義・保健講義の三域から成り立った。体育実技としては、「基礎体育」「応用体育」と称して学生の健康保持増進と生涯体育への指針を目的として種目別にクラスを設け開講された。また、学外での共同で生活する姿勢を養うことを目的に加え、夏期の「キャンプ実習」と冬期の「スキー実習」を開講した。講義科目は医学的見地から健康問題について講じた「保健講義」と、身体活動を科学的に捉えさせることを目的に運動力学・運動生理学等を講じた「体育講義」の2科目が開講された。単位修得については、体育実技・講義ともに2単位が必修で計4単位が卒業要件の必修科目であった。

その後、1991年の大学設置基準改正（大綱化）に伴いカリキュラムが構築され、学部の改組など学内外での改革が行われ、1993年度より体育科目においてもカリキュラムを改変した。科目の内容は、体育実技として「基礎体育」「応用体育1」「応用体育2」「生涯スポーツ」「スポーツ実習（ゴルフ実習・キャンプ実習・スキー実習）」、講義として「体育概論」「スポーツ概論」を設けた。単位修得については、教育課程編成の自由度が増し旧来の実技2単位・講義2単位の制約を外し、卒業要件として2単位は修得するものとし、その2単位を超えて修得した単位についても卒業要件に組み込まれた。また、科目は学生が必要に応じて自由に選択ができる2単位選択必修科目となった。

2003年度より、学部改組で文科省への申請に伴い体育科目のカリキュラムも1993年度から展開されてきたカリキュラムをベースに改編を行った。科目の内容は、体育実技として「基礎体育1」「基礎体育2」「応用体育1」「応用体育2」「応用体育3」「余暇生活実習1（ゴルフ）、2（キャン

*追手門学院大学 基盤教育機構 准教授

**追手門学院大学 基盤教育機構 非常勤講師

プ)、3 (スキー)」、講義科目として「体育概論」「スポーツ概論」を配置し、2 単位選択必修科目で開講された。

2019 年度より現カリキュラムとなり、実技科目が「スポーツ実習 1」「スポーツ実習 2」、講義科目では「スポーツ学入門」と名称変更を行い改編された。さらに、2021 年度より「スポーツ学入門」が「スポーツ学」と名称変更になった。卒業要件単位については、一部の学部を除いて、2 単位もしくは 1 単位の選択必修科目として開講された。

しかし、体育科目の修得単位について、発足時の 1966 年度から 2019 年度入学生までは卒業要件として必修科目を維持してきたが、2020 年度入学生より体育科目は選択科目となった。

Ⅱ. 目的

体育科目が選択科目になったことにより、各科目の開講クラス数の減少を余儀なくされており、体育科目を必要とする学生の履修における選択肢が減少することが予測される。体育学教室としては健康への追求、運動習慣・運動環境の提供をより一層幅広い学生へ、特に運動不足を感じている学生へスポーツを通して学習してもらうことを目的とし体育科目の充実を図る意向である。

本稿は、本学の体育実技科目の履修について、学生の意識、ニーズを把握することにより、今後の科目内容、授業内容、開講クラス数、クラス編成、開講する種目の選別、新たな科目への調整などの充実を図るためアンケート調査を実施した。

Ⅲ. 方法

1. 調査対象：追手門学院大学学生、2020 年度春学期スポーツ関連講義の受講生 458 名（経済学科 166 名、経営学科 180 名、社会学科 53 名、心理学科 37 名、国際教養学科 8 名、国際日本学科 11 名、未回答 3 名）を対象とした。
2. 調査方法：アンケート資料として、WebClass のアンケートシステムで設問を作成し、オンデマンド授業の中でオンラインによるアンケート調査を行った。
3. 調査内容：1. 現在の運動量・健康の状態、2. 当該科目を履修した理由、3. 体育実技科目履修状況、4. 運動に対する意欲、5. スポーツ活動の必要性、6. 大学体育実技の必要性、の 6 項目について実態調査を行った。
各質問において設問選択式で回答を得て、回答した理由を記述式でコメントを得た。
各設問で回答した理由のコメントを内容ごとにキーワードを作成し、その分類による集計を行った。
4. 調査時期：2020 年度春学期授業期間中に実施した。

IV. 結果および考察

1. 現在の運動量・健康の状態について

表1は、「現在、運動不足と感じているか」について回答を示したものである。「まったく感じていない」と「あまり感じていない」を合わせると32.3%の学生が運動不足とは感じておらず、「少し感じている」と「強く感じている」を合わせた63.1%の大半の学生が運動不足を実感していることが伺える。表2は、「現在、健康と感じているか」について回答を示したものである。「非常に健康だと思う」と「健康な方だと思う」を合わせると、68.1%の学生が健康と自覚しており、「あまり健康ではないと思う」と「健康ではないと思う」を合わせた26.2%の学生が健康に不安を感じている傾向がみられた。健康に不安を感じている原因を追求する必要があるが、運動と同時に生活習慣の見直しや、運動・睡眠・栄養などの正しい知識の習得が必要であると考ええる。

表1 現在の運動不足感

	N	%
1. まったく感じていない	51	11.1
2. あまり感じていない	97	21.2
3. 少し感じている	176	38.4
4. 強く感じている	113	24.7
5. 未回答	21	4.6
合計	458	100.0

表2 現在の健康感

	N	%
1. 非常に健康だと思う	56	12.2
2. 健康な方だと思う	256	55.9
3. あまり健康ではないと思う	109	23.8
4. 健康ではないと思う	11	2.4
5. 未回答	26	5.7
合計	458	100.0

2. 当該科目を履修した理由について

表3は、今学期スポーツ系講義科目を履修した理由について回答を示したものである。その結果、履修した理由の上位3項目は、「健康維持・体力増進の知識を習得するため」22.6%、「理論としてスポーツ学を学びたかったから」18.6%、「シラバス・テーマを見て興味があったから」17.2%となっており、3項目の結果を合わせて58.4%で、大半の学生は「健康・体力・スポーツ」の領域に興味を持ち、シラバスを見て履修をした傾向があると伺える。また、その他に記載しているコメントでは、過去に履修したスポーツ系講義科目の影響を受けている学生が存在しており、年度を継続してスポーツ学を学習する環境を体育実技につなげる工夫を今後の課題と考える。

表3 当該科目を履修した理由（複数回答可）

	N	%
1. シラバス・テーマを見て興味があったから	135	17.2
2. 理論としてスポーツ学を学びたかったから	146	18.6
3. 健康維持・体力増進の知識を習得するため	178	22.6
4. 実践しているスポーツに役立てたいから	91	11.5
5. 体育実技「スポーツ実習」が履修できなかった	12	1.5
6. 取得単位不足を補うため	84	10.7
7. 空き時間だったから	60	7.6
8. 友達に誘われて	41	5.2
9. 特に理由はない	20	2.5
10. その他	10	1.3
11. 未回答	10	1.3
合計	787	100.0

「その他」と回答した具体的コメント

- ・今注目されているコーチングを学びたかったから。
- ・去年の秋学期にスポーツ学入門の授業を取っていたので取ろうと思った。
- ・昨年受講していた友達に良いと教えてもらったため。

3. 体育実技科目履修状況について

表4と表5は、体育実技科目の履修について春学期と秋学期の状況を示したものである。表4の2020年度春学期は体育実技（スポーツ実習）を20クラスの履修登録を準備していたが、新型コロナウイルスの影響で不開講と決断した。その背景で、スポーツ実習が開講していたならば、「履修する予定であったか」の設問に対し、「履修していた」41.9%、「履修していない」57.0%であった。表5の秋学期は、体育実技「スポーツ実習」を履修するかどうかについての回答を示したもので、「必ず履修する」と「時間が合えば履修する」の「履修する」と回答したかを合わせると50.2%で、履修に対して大半の学生が前向きな意思が確認できた。

表4 体育実技履修状況（春学期）

	N	%
1. 履修していた	192	41.9
2. 履修していない	261	57.0
3. 未回答	5	1.1
合計	458	100.0

表5 体育実技履修状況（秋学期）

	N	%
1. 必ず履修する	21	4.6
2. 時間が合えば履修する	209	45.6
3. 多分履修しない	118	25.8
4. 履修しない	103	22.5
5. 未回答	7	1.5
合計	458	100.0

表6は、表5において秋学期に体育実技（スポーツ実習）を「履修する」と回答した理由についてまとめたものである。履修する理由の上位2項目は、「運動・スポーツが好きだから」35.9%、「健康・体力の維持・増進のため」17.8%の結果であった。「健康・体力の維持・増進のため」は、表3の当該科目の履修した理由にも高い値で示されており、理論的にも実技的にも体育を受講することで、健康維持を図ろうとする意向が伺える。

表6 履修すると回答した理由（秋学期）（複数回答可）

	N	%
1. 運動・スポーツが好きだから	197	35.9
2. 健康・体力の維持・増進のため	98	17.8
3. スポーツ技能の習得のため	34	6.2
4. コミュニケーション能力を養うため	34	6.2
5. 友達を増やすため	29	5.3
6. 取得単位不足を補うため	26	4.7
7. 特に理由はない	14	2.5
8. その他	26	4.7
9. 未回答	92	16.7
合計	550	100.0

「その他」と回答した具体的コメント

- ・コロナの影響でたくさんの大会が無くなってしまい、みんなで集まって体を動かす機会も少なくなってきてしまっているので秋学期が実施されるのならたくさん運動をしたいと考えています。
- ・資格に必要。

表7は、表5において秋学期に体育実技（スポーツ実習）を「履修しない」と回答した理由についてまとめたものである。履修しない理由の上位3項目は、「スポーツウェアや靴を用意するのが面倒だから」15.5%、「汗をかくのが嫌だから」14.5%、「運動が苦手だから」12.1%の結果であった。

表7 履修しないと回答した理由（秋学期）（複数回答可）

	N	%
スポーツウェアや靴を用意するのが面倒だから	45	15.5
汗をかくのが嫌だから	42	14.5
運動が苦手だから	35	12.1
運動・スポーツの実技には関心がないから	20	6.9
多数の人と接するのが好きでないから	18	6.2
コミュニケーションが苦手だから	13	4.5
体を動かすのが嫌だから	12	4.1
その他	105	36.2
合計	290	100.0

表 8 その他と回答した具体的コメント

履修済み。単位習得済み	66
他に取りたい授業があるから	8
1 コマで1 単位しかないから	5
4 回生で学校に行く機会が少なくなるから。就活のため	3
自分でトレーニングしている	3
シャトルランが嫌い	1
実習で付いていけるだけの技術力がないと自負しているから	1
授業をとってまで、スポーツをする意味がない	1
その他	17

4. 運動に対する意欲について

表 9 は、現在の運動意欲についての回答を示したものである。その結果、運動がしたいと答えたのが 85.2% と高い回答率が得られた。

表 10 は、表 9 で運動がしたいと回答した理由についてまとめたものである。理由の上位 5 項目は、「スポーツ・運動が好きだから」16.2%、「運動機会の減少」12.8%、「運動不足の解消」9.7%、

表 9 運動意欲

	N	%
1. 運動がしたい	390	85.2
2. 運動をしたくない	53	11.6
3. 未回答	15	3.3
合計	458	100.0

表 11 運動意欲で「運動をしたくない」と回答した理由（5 件以上）

	N	%
運動が苦手	9	17.0
しんどいから	8	15.1
暑いから	6	11.3
好きではない	5	9.4
運動する気が起きない	5	9.4
その他	20	37.8
合計	53	100.0

表 10 運動意欲で「運動がしたい」と回答した理由

	N	%
スポーツ・運動が好きだから	78	16.2
運動機会の減少	62	12.8
運動不足の解消	47	9.7
健康のため	46	9.5
体力維持・増進のため、体調維持	45	9.3
コロナウイルスの影響	43	8.9
体重増加したから、ダイエット、体型維持	43	8.9
ストレス発散・解消・リフレッシュ	27	5.6
交流・コミュニケーション能力向上	26	5.4
楽しいから	14	2.9
体を動かしたいから	13	2.7
競技力向上のため	8	1.7
トレーニング論で学習での影響	5	1.0
汗をかきたいから	4	0.8
その他	22	4.6
合計	391	80.9

「健康のため」9.5%、「体力維持・増進のため、体調維持」9.3%であった。1位の「スポーツ・運動が好きだから」は、表6で示した秋学期に体育実技（スポーツ実習）を「履修する」と回答した理由においても1位の回答を得ており、今般コロナ禍の影響で運動する機会が減少したことにより運動量が減少し、表1で示したように大半の学生が運動不足を実感していることから運動意欲が高まる要因につながると推測される。表11は、表9の「運動をしたくない」と回答した理由についてまとめたものである。理由の上位3項目は、「運動が苦手」17.0%、「しんどいから」15.0%、「暑いから」11.3%であった。その他の理由として、汗をかきたくない、したくない、疲れる、必要ない、面倒だから、体がだるい、関心がない、興味がない、筋肉痛があるから、コロナ禍、仕方なくしている。といったコメントがあった。

5. スポーツ活動の必要性について

表12は、スポーツ活動の必要性についてまとめたものである。その結果、95.2%が「必要である」と回答しており、認識している学生は多い。しかし、今回アンケート調査の対象者がスポーツ関連講義の受講者であることから、運動・スポーツの重要性を理解し、また健康に対する機運の醸成が図れた可能性も考えられる。表13のスポーツ活動が「必要である」と答えた理由では、「健康のため」41.8%が半数近く占めており、「健康」と「運動」の関連意識が高い傾向にあると伺える。また、「交流・コミュニケーション能力向上」11.1%、「ストレス発散・解消・リフレッシュ」8.8%となっており、合わせて2割ほどの学生が示している。これは、「今般コロナ禍の生活に伴いオンライン授業で学

表12 スポーツ活動の必要性

	N	%
1. 必要である	436	95.2
2. 必要でない	5	1.1
3. 未回答	17	3.7
合計	458	100.0

表13 スポーツ活動が「必要である」と回答した理由

	N	%
健康のため	234	41.8
交流・コミュニケーション能力向上	62	11.1
ストレス発散・解消・リフレッシュ	49	8.8
生活習慣病の予防	38	6.8
老化の防止	22	3.9
体力維持・増進のため	19	3.4
メンタル面の向上	14	2.5
QOLの向上のため	7	1.3
協調性	6	1.1
体調の改善	5	0.9
体型維持	5	0.9
人間形成の成長	3	0.5
生活習慣の改善	3	0.5
怪我の防止	2	0.4
運動不足の解消	1	0.2
体型維持	1	0.2
運動の喜びを得る	1	0.2
感動を与える	1	0.2
観るのも楽しい	1	0.2
自分自身の成長につながる	1	0.2
人生を幸せにする効果がある	1	0.2
体の機能を整える	1	0.2
礼儀や挨拶などが学べる	1	0.2
その他	41	7.3
未回答	41	7.0
合計	467	83.5

表 14 スポーツ活動が「必要でない」と回答した理由

運動が嫌いや苦手、したくないといった人は必ずしもしなくてもいいと考える。 人とのチームワークやコミュニケーションといった方面ならば必要になってくるかもしれないが、 それだと運動にこだわる必要はないと考える。	1
誰しものがスポーツをしてプラスに働くとは思わないから。 スポーツでなくても軽い運動で十分。	1
働いていたら、少しは体を動かすからあえて運動を行う必要がない。	1
未回答	425

校に来ることができない」「外出を自粛している」「対人との交流・コミュニケーションの不足」「自粛生活からのストレス」といった要因から影響しているものと推測される。

表 14 は、表 12 の「必要でない」と答えた理由をまとめたものである。回答数は少数であるが今後の体育実技科目の充実・改革を図るための貴重な意見であるので基礎資料として表記する。

6. 大学体育実技の必要性について

表 15 では、大学体育実技の必要性についてまとめたものである。「必要である」と答えた値は 74.5% と高い数値を占めているが、前項のスポーツ活動の必要性で「必要である」の回答値 95.2% に比べると低い値となっている。

表 16 の「必要である」と答えた理由の上位 3 項目は、「運動習慣・運動環境の取得」36.0%、「交流・コミュニケーション能力向上」10.8%、「スポーツ技術・知識の習得」8.4% であった。

特筆したコメントを「運動習慣・運動環境の取得」「運動不足の解消」「交流・コミュニケーション能力向上」「スポーツ技術・知識の習得」「必修にして欲しい」に分類し、キーワード別にまとめた。

表 15 大学体育実技の必要性

	N	%
1. 必要である	341	74.5
2. 必要でない	96	21.0
3. 未回答	21	4.5
合計	458	100.0

表 16 大学体育実技が「必要である」と回答した理由

	N	%
運動習慣・運動環境の取得	164	36.0
交流・コミュニケーション能力向上	49	10.8
スポーツ技術・知識の習得	38	8.4
運動不足の解消	27	5.9
健康のため	21	4.6
ストレス発散・解消・リフレッシュ	6	1.3
単位修得のため	2	0.4
必修にして欲しい	2	0.4
その他	28	6.2
未回答	118	26.0
合計	455	100.0

表 17 キーワード別の具体的コメント

「運動習慣・運動環境の取得」

大学生になると運動する機会が減ると思います。サークルに入っていればいいのですが運動はやりたいけど人間関係が嫌だということからサークルに入らない人もいます。そんな生徒たちのためにも大学での体育実技は必要だと思います。
学外で運動をする機会がない人や、自分で運動する機会を設けることができない人などは大学の実技を通して運動する機会を得ることができるのはとても貴重であると思うから。
小学校、中学校、高校と体育の授業があり、運動する機会が多かったのですが、大学生になると部活に入っていない限り運動する機会が少なくなったので大学での体育実技の授業は必要だと思いました。
大学でも実技の理解を深めるために必要だと考える。そこで高校でやったから必要ないと言う人もいるかもしれないが、学びたい学生に幅をもたすことによってより、専門性のあることを学べ、充実した学びを提供できるから。
大学に限らず、何歳になっても運動は必要であると考えております。また大学生になると運動する機会も高校までに比べると減ってくるので、大学が体育を出来る環境があることは素晴らしいと思う。
大学に体育の必須単位科目があることで、普段運動しない人や運動が嫌いな人達が運動をするきっかけになるからです。
大学に入ると急激に運動する習慣やスポーツをできる場などが減る。そういったことからスポーツをできる環境というのを選べるのはとても嬉しいことだから。

「運動不足の解消」

大学になれば運動不足になる人が増えるので運動不足を解消するためです。週一回でも動いていたらまだマシだと思います。
大学は運動機会がすくないので少しでも運動不足を解消するために必要だと思う
大学生になると、部活やサークルに入っていない限り運動する時間はあまり確保できないので、運動不足解消のために必要であると考えます。また、他学部や学年の違う人たちとコミュニケーションをとることができるから。

「交流・コミュニケーション能力向上」

身体を動かし何かを一緒に行うことで、自然とコミュニケーションをとることが出来、コミュニケーション能力の向上に繋がるためです。また、部活動に属していない人の運動不足解消にもなるからです。
生徒同士が仲良くなれる 1 番の授業だと思うから。大学の体育の授業で仲良くなった人たちが多いと思います。
スポーツから多くの事が学べるし、スポーツは人間関係が大事なため社会人には必要なことだから大学で学習できることは有り難いと思います。
大学のスポーツ実習は、ただスポーツをするだけでなくスポーツをするために重要なコミュニケーションを意識したり、スポーツ競技能力の向上を目的の一つ一つ取り組むところがただ楽しむだけではないところが大学のスポーツ実習の良いところだと思います。
大学の体育で仲良くなった友達も多い。他の授業ではなかなか関わることがない人でもスポーツを通して仲良くなることがあるからです。
大学生になると、体育以外で体を動かすことがあまりない、もしくは減ったから。また、交友関係を広げるためにも必要だと思った。
大学生の時はいろんな人と交流を持つことが大切だと思う。そこで一番自然体で仲良くなれるのはスポーツを通じてだと思う。

「スポーツ技術・知識の習得」

どれだけ教科書などでルールなどを勉強しても、実際にやって、そのスポーツの楽しさを知り、どういうスポーツかを知ることが大切だと思うので、実技は必要だと思います。

大学生では様々な角度から物事を見る機会があると思うので、そういった視点は運動にも必要だと思うから。

中学、高校とは違い幅広い種類のスポーツを受ける事ができるので、これまでになかった競技を受ける事ができるから。

「必修にして欲しい」

強制性がないと運動をしない人が多いと思うので、体育実技はあるのはいいと思う。

表 18 は、表 15 の「必要でない」と答えた理由をまとめたものである。大学での体育実技は必要性でないと回答した内容を把握し、学生の意識として真摯に受け止め、改善に向けての資料としてするため、コメント内容全ての事項を下記の表に記載した。

表 18 大学体育実技が「必要でない」と回答した理由

スポーツサークルがあるので、スポーツをやりたい子はスポーツサークルに所属しているだろうから、大学の授業としてはいらないのではないかと思います。
運動に関する理論的な事を理解する必要はあると思うので座学は必要だと思うが、単に競技を行う実技が必要だとは特に感じないから。
実は、必要でない一面もあると思う。必修ではないことから、履修者においても普段から運動習慣が身についている人が多く、運動不足解消にはほとんど繋がっていないのが事実であると感じる。
実技をやりたい人はやればいいと思うし、無理してやる必要はないと思う。 あったほうがいいのかとは感じるが必須ではないだろうと考えた。
主な体育実技については、義務教育の中でほとんど学習が済んでいると思うので、さらに学びたい人や、実技がしたい人だけが履修すれば良いと思ったから。
取得単位が1なので運動は好きですが2単位欲しかったからです。
受けたい人が受けるもので、必修だから仕方なく受けたというのは、授業に取り組む姿勢として良くないから。
専門的なことを学びにきている為、勉強には必要ないと思います
体を動かすのが好きではない人もいる中で無理やらやらせるのもどうかと思う。
体育そのものが嫌いだった人もいるし、大学という授業を自由に組める環境では無理に嫌なものに取り組まずに、自分の好きなものに取り組むべくではないかと考えたから。好きな人にとっては必要であると考えます。
体育は義務教育の時だけでいいと思うからです。なぜなら、運動が得意な人もいれば、苦手な人もいます。 なので、義務教育が終われば、自分が運動をしたければする、また、したくなければしない、と自分で選択していけばいいと思うからです。
体育実技の授業があるのは良いと思うが、全員必修でなくスポーツをしたい人のみが履修できるもので良いと思う。

大学では自由な時間がとても多くなります。それにより、自分の時間をどう使うかを考えることも大学生の大事なことだと私は思うので、健康面に気をつけるのも自分の役目だと思います。だから、必修にしてまで体育実習はする必要はないと思います。
大学では運動も重要だが自分が学びたいものを学べばいいと思う。運動に関しては学校以外でもできるため大学生なら生活習慣病にもならないように自己の判断ですべきだと思うから。
大学の目的とはまたちがうものだとかんがえているから。 大学のしたい勉強をする上だけで考えると必要ないのではないかと考えてしまいました。
大学は自分で興味のある授業を勉強したいときに春と秋のどちらかで履修するので、本人が選ぶことが大切であるからです。
大学は主に自分で時間割などを作成できるため、自由に時間を作ることができる。そのため、身体を動かしたい、スポーツをしたい人は個人で行うことができる。また、発育等は大学ではあまり関係ないように思えるから。
大学は履修制なので、受講者が運動を好きな人などに集中し、全員が履修することができない。体育の授業から、体力、健康維持、団体行動の大切さを学ばせるならば体育を必修科目にして全員が受けられる方にした方がよい。
大学生になると社会に行く手前なので運動よりも勉強や資格メインの取り組みをした方がいいと思うので大学生にはあまり必要じゃないと思いました。
大学生になれば自分で時間をみつけて好きなように体力づくりをしたらいいと思うので大学の体育は必要というわけではないと思う。
追手門は大学生活の4年間のうち体育実技か座学の授業を1回とれば、卒業に必要な体育の単位が取れる。学生が習慣的に運動することには繋がらないと思う。また、大抵の学生は体育を一度しか履修しない。
必修にする必要はないと感じたが、もちろん必要だと感じる人もいると思う。 一緒にスポーツをすることで新入生はとくに友達をつくるきっかけにもなると思う。
必要だとは思いますが、体育やスポーツに重きをおいて入学する学生は少ないと思うし、単位が1なら2単位もらえる他の授業を受ける人が大半なので、大学の授業で体育はあればいいが絶対必要とまではいえないと思う。

V. まとめ

本学の体育実技科目は、大学発足時の1966年度から2019年度入学生までは卒業要件として必修科目を維持してきたが、2020年度入学生より体育科目は選択科目となった。そこで、選択科目となった体育実技科目を今後の充実・改革・発展に向けての基礎資料として、学生の意識、ニーズを把握するため、下記の6項目について実態調査を行った。

1. 現在の運動量・健康の状態

63.1%の学生が運動不足を実感している。

68.1%の学生が健康であると自覚している。

2. 当該科目を履修した理由

大半の学生は「健康・体力・スポーツ」の領域に興味を持ち、シラバスを見て履修をした傾向がある。また、過去に履修したスポーツ系講義科目の影響を受けている学生が存在している。

3. 体育実技科目履修状況

秋学期の履修では、体育実技科目を「履修する」50.2%の回答を得ており、その理由として

「健康・体力の維持・増進のため」が示され、スポーツ系講義を履修した理由の上位と同様の結果が得られた。

体育科目を履修する学生は理論的にも実技的にも健康や体力を増進する意向が高い傾向にある。

4. 運動に対する意欲

今般コロナ禍の影響で運動する機会が減少したことにより運動量が減少し、大半の学生が運動不足を実感していることから、運動意欲が高まる要因につながっていると推測される。

5. スポーツ活動の必要性

スポーツ活動の必要性では、95.2% が「必要である」と回答しており、必要性を実感している学生は非常に多い。理由には、「健康のため」と回答した学生が半数近く占めており、「健康」と「運動」の関連意識が高い傾向にあると伺える。

6. 大学体育実技の必要性

大学体育実技の必要性では、74.5% が「必要である」と回答しており、その理由として、「運動習慣・運動環境の取得」「交流・コミュニケーション能力向上」「スポーツ技術・知識の習得」が上位に示された。

調査の中で「大学生になると運動する機会が減ると感じたり、大学生になるとたんに運動をしなくなる人が多くなり、継続してきたスポーツを辞めたり、運動はしたいけれど諸事情でクラブやサークルに入らない人もいる。」とのコメントを得た。今後、本学体育学教室としては、キャンパス内で運動機会・運動習慣を求めている学生に対して、参加し易い（履修し易い）環境づくりが求められる。学生が体育実技を履修し易い条件を図るには、必修科目、オンライン授業科目といった他科目との兼ね合いで時間割作成上の工夫が重要であると考えられる。

また、キャンパス間の移動も、大きな課題となってくる。今回の調査では触れてはいないが、学生のキャンパスライフの過ごし方で、時間的に無駄なくスポーツ施設を簡易に使用できるかが重要となる。我々は、スポーツ・運動を苦手としている学生への対応、スポーツを必要としない学生に対してスポーツに興味を抱かせる工夫、汗をかくのが嫌だからといったスポーツ実施後の環境整備といった諸問題を、どう捉えるべきか検討することも必要と考える。このような諸問題を整理するとともに、基盤教育機構が掲げている現行のカリキュラムの中で、学生にとってより一層魅力的なカリキュラムを提供できるかが重要な課題と考える。

《参考・引用文献》

天田英彦・青木敦英（2010）大学体育実技の履修に関する実態調査－スポーツ科学演習の受講状況から－，流通科学大学論集－人間・社会・自然編－ 第23巻第1号

田中伸明・上向貫志・村山光義・山内 賢・佐々木玲子・植田史生・近藤明彦（1997）慶應義塾大学学生の体育実技の履修に関する実態調査，慶應義塾大学体育研究所研究プロジェクト「21世紀のスポーツ・健康教育」

大学体育関連情報調査チーム（平工志穂・小林勝法）（2017）体育・スポーツ・健康科目の履修に関する意識調査結果ダイジェスト，全国大学体育連合

松井 健・辰本頼弘・千葉英史・巽 樹理（2018）体育実技科目における時間割固定化の検証－追手門学院大学 1 年生の春学期における学科クラスを基準とした時間割固定の事例－，追手門学院大学基盤教育論集 第 5 号

追手門学院大学二十年史（1986）保健体育 96-98

追手門学院大学三十年史（1996）体育学関係 104-105

追手門学院大学五十年史（2016）体育学教室 166-167

体育の手引（1993・2003）追手門学院大学体育学教室